

老人介護痴呆症に関する対応策について

前述の件に因り、暮花連では、平成5年1月29日付、八王子市長・波多野重雄殿宛(暮花連ニュースオ37号参照)、4月4日付八王子市老人クラブ連合会長小野良一殿宛(ニュースオ39号参照)、4月16日付東京都老人クラブ連合会長細島源藏殿宛(ニュースオ40号参照)、4月16日付東京都福祉局長松垣正己殿宛(ニュースオ40号参照)等々に陳情書を提出し、下記のようて対応策の実施を要請して参りました。

記

具体的な対応策としては、狹松医療センター副院長金子滿雄先生の御指導により実施する、として次のようす方針を提示致しております。

1. 金子先生が主張されている痴呆症の早期発見方法やリハビリによる治療方法等の総合テキストを発行して頂き、講習会において御指導を受ける。

2. 痴呆症の分類

- (1), 前痴呆 (2), 軽症痴呆 (3), 重症痴呆 (ボケ老人)

3. 痴呆症の早期発見テスト

- (1), 老人会の現会員に対し、テストを行う。

- (2), 老人会の新規参加者に対し、テストを行う。

- (3), 身体の変調を自覚した場合は連絡なくテストを申込むよう指導する。

- 4. 前痴呆及び重症痴呆と判定された場合は治療方法やリハビリ方法の御指導を受けた。

(注: テストは3分前後の簡単な紙面テストで、から発案に参考用頂けます)
以上のよう本提案を致しておりましたが、残念ながら、未だに反応が見受けられない状態となつておりますので、更に、東京都の鈴木俊一知事殿宛に陳情書を提出する予定で資料を収集しておりました所、突然(4月15日付)タイミング"良く金子先生より下記のよう心強い書翰を頂きました。早速御報告(全文)申し上げます。
尚、先生から「即ちこの競技会時にかけて痴呆症テストに因るては、先生と皆様の工通常実際には実施して頂く予定でありますので、会員各位には御了知置下さいね」と仰言下さい。

記

4月15日付金子滿雄先生の書翰

前略

毎回の暮花連ニュースを送って頂きありがとうございます。

その後、「高齢者に暮を奨めよう」という動きが、いくつかありましたので「暮をとりました。こうう狹松では、私が各地の老人会で講演会をして、「年老とてからも暮をあれば楽したことば出來る。ボケ防止には暮が一番!」と話して頂いています。

私の友人に内科医の西田先生がいて、彼は团暮六段で暮会所(狹松团暮センター)を開いています。300人も入れる大々会場です。

彼は定期に老人会でも、小学校へも出かけて、初心者に暮を教えることもやつてくれます。

彼の会場で、「暮を用いた腰のリハビリ教室」は、もう何年もやっていて、ボケが軽く起り始めた人で、若い娘に一寸 暮をやつしたことのある人は、そこへ送りこむと、樂しみながらボケを治してれます。これは、非常に効果があります。

先日、日本全国暮協会(桑原さん)から、そのことで「取材にこられて、その会場で暮を打ち伏せた、暮をしました。

また、先週、日本棋院の「レッツ・ゴー」の編集をしている方から連絡があって、

(次葉へ)

(前葉より)

「高齢者へ基を！」の話をしました。その際、八王子の熊崎さん達の動きについて説明し、あのニュースのコピーもお送りしておきました。
日本棋院の方からも、どのような運動をしたい意向があつたのです。
もう一つ、向こうと折合せているのは、日本棋院で大きな大会をやるとときに、参加者の方達に協力してもう一つ脳機能を測定する計画についてです。
基をつく高齢者は脳がカクシメとていろことを、よりたくさんの人達で証明するのが目的です。
毎年会の一般人についての脳機能測定は、すでに私の部にそろっているから比較は簡単です。これも遠からず実現するでしょう。

そこで、熊崎さんにも同じお願いをしたいのですが、如何でしょうか。
基大会の開催前に10～15分あれば200名程度のテストは可能で万。

(兼算、2分プラス1分のテストで万)

この所は、研究費を用意しているので、神経心理士の女性を10人程度連れて行って、私自身が歩きま方。費用は交通費は何も不要です。

もし、会員の皆様に了承してもらえれば、7月、8月、9月、いつでも結構で万。

ペーパーテストで書類もこちらで用意出来ま方。

また、テープの上でエンピツで記入してもらうだけで出来ま方。

年会毎に、どの程度、正常人と異なるか、すぐに分かりま方。

以上、もし可能性があるようでしたら、いつも御連絡下さい。

私は、1000人くらいの人を対象にして(統計的に)結論を出し、海水を用いて、日本棋院→厚生省へも働きかけたいと思いま方。

まづはお願ひまで

7月15日

金子満雄

◇ ◇

ボケ防止のための脳機能テストの実施について

金子満雄先生より、基老連会員に対する脳機能テストを実施してはどうかとの好意的お譲りを受けましたので、早速手配しますからよろしくと御返事申し上げました。
8月1日の「ボケ防止のための講座開基八王子大会」を提案したいと存じましたが、既に招待状は発送済であること及び「講座時間に余裕がない事等の理由で無念ながら無理と思い、9月4日の基老連研修会基大会(八王子)において、先生の御講演とテスト実施をお願いしました所、御承諾を得ました。

茲で、先生のボケ防止講義の御活動について御紹介申し上げま方が、先生のお説について、基老連ニュース第38号に掲載した「基打ちにボケなし」を御参考照下さい。即ち、先生の御信念は「ハから基を乗じる人はボケるはガバない」とあり、その事は、過去8年間に7,000人以上にのぼる高令者の脳機能調査と、先生御自身が診断された2,500人の不¹患者の中で、基打ちが3人食事していたが、その3人も普通の老人が¹アルツハイマー病)でなく、脳の血管障害によるものだったと云う事実に裏打ちされた御確信だと拜察致しております。

尚、先生は、老人会等での御講演を通じ、老人に開基を奨励されており、更に、老人基打ちに開基データを集め、日本棋院や厚生省に提案したいとおっしゃる。

基仲間としては誠に心強く有難い次第とハから敬意を表させて顶きます。

17

八老連囲碁大会に関する件

下記御案内を頂戴した時には、碁老連ニュースオ42号(7月8日発行)は既に発行済となつてあり、更にオ43号(8月8日発行)が会員にお渡けある時まで、申込締切日を経過していみと云う事態を迎えることになりました。

従つて、猶愈ながら今年の大会に参加推薦を行ふことが不可能となつてしましました。

近頃にも、当方の不牛際により折角の期待を負っていたにも拘らず裏切つてしまつたる仕合と相成り誠に申訳あら次第にて、八老連当局者及び碁老連会員に対する心から御詫びを申し上げます。

愚の如き御容赦願ひます。

尚、来年度の大会には、万全の策を以つて御協力申し上げる所存にて、盛り下八老連囲碁大会を期待しております。

八老連発第32号
平成5年7月9日

会員殿

八王子市老人クラブ連合会
会長 小野長一
(公印略)

八老連30周年記念第19回囲碁大会の開催について（通知）

のことについて、各老人クラブ会員の親睦と囲碁同好者の交流を深めるために、下記のとおり実施いたしますので、会員多数参加されますようご通知申し上げます。

記

1. 日 時 平成5年8月31日（火）受付午前9時～9時30分

2. 試合開始 受付終了後 各組編成完了次第

3. 会 場 老人福祉センター 会議室

4. 競技方法 お届けいただいた段級位を参考にしてA・Bグループを決め、グループ内で4人1組の対戦相手を決めます
各組でリーグ戦を行い多勝者がトーナメントに出場して上位入賞者を決定します。

5. 会 費 300円（昼食代）当日持参のこと。

6. 賞品及び参加賞 賞品は、各組5等まで。参加賞は全員にさしあげます。

7. 申込方法 各理事は（単一クラブ会長）、下記申し込み書を8月7日までに各支部長に届けて下さい。各支部長は、8月9日の常任理事会に文化部担当までに提出ください

*記入上の注意・クラブ、会長名は正しく、支部数字もお忘れなく。

・組合せを容易にするため、自分の力は正確にご記入願います。

・提出締切は厳守、提出後の変更は早めに事務局へ

(8)

